

作成日:2013年08月13日

製品安全性データシート

1. 【製品及び会社情報】

カタログ番号	製品名
354115	Corning® ティースティム、ラット 100mL with ConA
354116	Corning® ティースティム、ラット 100mL without ConA

会社名 コーニングインターナショナル株式会社
 住所 東京都港区赤坂1丁目11番44号
 連絡先 03-3586-1996
 使用上の制限 研究用試薬

2. 【危険有害性の要約】

GHS 分類

物理化学的危険	火薬類	分類対象外	
	可燃性・引火性ガス	分類対象外	
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外	
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外	
	高压ガス	分類対象外	
	引火性液体	分類できない	
	可燃性固体	分類対象外	
	自己反応性化学品	分類できない	
	自然発火性液体	区分外	
	自然発火性固体	分類対象外	
	自己発熱性化学品	分類できない	
	水反応可燃性化学品	分類対象外	
	酸化性液体	分類対象外	
	酸化性固体	分類対象外	
	有機過酸化物	分類対象外	
	金属腐食性物質	分類できない	
	健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分3
		急性毒性(経皮)	区分2
		急性毒性(吸入:ガス)	区分外
急性毒性(吸入:蒸気)		分類できない	
急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)		分類対象外	
皮膚腐食性・刺激性		区分外	
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性		区分外	
呼吸器感作性		分類できない	
皮膚感作性		分類できない	
生殖細胞変異原性		分類できない	
発がん性		分類できない	
生殖毒性	分類できない		

環境に対する有害性	特定標的臓器・全身毒性(単回曝露)	区分外
	特定標的臓器・全身毒性(反復曝露)	区分外
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
	水生環境急性有害性	区分外
	水生環境慢性有害性	区分外

シンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

可燃性液体
 飲み込むと有毒(経口)
 皮膚に接触すると生命に危険 (経皮)

注意書き

安全対策

- ・炎や高温のものから遠ざけること。－禁煙。
- ・適切な保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
- ・取扱い後はよく手を洗うこと。
- ・この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- ・眼、皮膚、または衣類に付けないこと。
- ・ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- ・汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

応急措置

- ・火災の場合には適切な消火方法をとること。
- ・飲み込んだ場合、口をすすぐこと、直ちに医師に連絡すること。
- ・皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼でやさしく洗うこと。
- ・直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。
- ・皮膚に付着した場合、皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
- ・眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・眼に入った場合、眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。
- ・曝露した時、または気分が悪い時は、医師に連絡すること。

保管

- ・換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
- ・施錠して保管すること。

廃棄

- ・内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託し適切に廃棄すること。

3. 【組成、成分情報】

単一製品・混合物の区別 混合物

化学名または一般名	濃度(%)	CAS 番号	官報公示整理番号	
			化審法	安衛法
2-メルカプトエタノール	0.0015	60-24-2	(2)-458	-

4. 【応急処置】

<p>吸入した場合 皮膚に付着した場合</p>	<p>医師に連絡すること。 多量の水と石鹼でやさしく洗うこと。 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。 直ちに医師に連絡すること。</p>
<p>目に入った場合</p>	<p>水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。</p>
<p>飲み込んだ場合</p>	<p>口をすすぐこと。 直ちに医師に連絡すること。</p>
<p>予想される急性症状および 遅発性症状</p>	<p>吸入: 息切れ。 皮膚: 発赤、痛み。 眼: 発赤、痛み。 経口摂取 : データ無し</p>
<p>最も重要な兆候及び症状 応急措置をする者の保護 医師に対する特別注意事項</p>	<p>中枢神経系に影響を与えることがある。 データ無し データ無し</p>

5. 【火災時の措置】

<p>消火剤 使ってはならない消火剤 特有の危険有害性</p>	<p>泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類 棒状放水、水噴霧 熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。 激しく加熱すると燃焼する。 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。</p>
<p>特有の消火方法</p>	<p>危険でなければ、速やかに容器を安全な場所に移す。 容器が熱に晒されているときは、移動させない。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。</p>
<p>消火を行う者の保護</p>	<p>適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。</p>

6. 【漏出時の措置】

<p>人体に対する注意事項 保護具および緊急措置</p>	<p>全ての着火源を取り除く。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 密閉された場所に立入る前に換気する。</p>
<p>環境に対する注意事項 回収・中和</p>	<p>環境中に放出してはならない。 不活性材料(例えば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。</p>
<p>封じ込め及び浄化の方法・機材 二次災害の防止策</p>	<p>危険でなければ漏れを止める。 全ての発火源を速やかに取り除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。</p>

7. 【取扱い及び保管上の注意】

<p>取扱い</p>	<p>技術的対策 「8. 曝露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 局所排気装置・全体換気 「8. 曝露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なう。 安全取扱注意事項 炎や高温のものから遠ざけること。－禁煙。 取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 眼、皮膚、または衣類に付けないこと。 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。</p>
------------	---

	飲み込まないこと。 皮膚と接触しないこと。 眼に入れないこと。
接触回避	「10. 安定性及び反応性」を参照。
保管	
技術的対策	保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なますを設けること。
混触禁止物質	「10. 安定性及び反応性」を参照。
保管条件	容器は密閉して換気の良い冷暗所に保管すること。
容器包装材料	データ無し

8. 【曝露防止及び保護措置】

製品としての情報がないため以下、2-メルカプトエタノールの曝露防止及び保護措置を記載する。

管理濃度(作業環境評価基準) 未設定

許容濃度

日本産業衛生学会 未設定 (2009 年度)

ACGIH 未設定 (2009 年度)

設備対策

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。

保護具

呼吸器の保護具 適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具 適切な保護手袋を着用すること。

眼の保護具 適切な眼の保護具を着用すること。

皮膚及び身体の保護具 適切な保護衣を着用すること。

衛生対策

取扱い後は顔や手をよく洗うこと。

9. 【物理的及び化学的性質】

物理的状態、形状、色など	液体、赤い透明
臭い	特異臭
pH	データ無し
融点・凝固点	データ無し
沸点、沸騰範囲	データ無し
引火点	データ無し
発火温度	データ無し
爆発範囲	データ無し
蒸気圧	データ無し
蒸気密度	データ無し
比重(密度)	データ無し
溶解度	水に溶解
n-オクタノール/水分配係数	データ無し
分解温度	データ無し
臭いの閾値	データ無し
蒸発速度(酢酸ブチル=1)	データ無し
燃焼性(固体、ガス)	データ無し
粘度	データ無し

10. 【安定性及び反応性】

安定性	常温常圧で安定
危険有害反応可能性	報告なし

避けるべき条件	混触不可物質、
混触危険物質	金属、強い酸化剤、強塩基、銅、銅合金
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、二酸化炭素、硫酸化物、硫化水素

11. 【有害性情報】

製品としての情報がないため以下、2-メルカプトエタノールの有害性情報を記載する。

急性毒性

- 経口 ラット LD50 値は 244 mg/kg bw(環境省リスク評価 (第 7 巻、2009)) に基づき、区分 3 とした。
- 経皮 ウサギ LD50 値は 150 mg/kg bw (HSDB (2006))、112-224 mg/kgbw (IUCLID (2000))、168 mg/kg bw (IUCLID (2000)) に基づき、区分 2 とした。
- 吸入 (ガス): GHS 定義における液体である。
(蒸気): データ不足。なお、LC50 値 13200 mg/m3 との報告(環境省リスク評価 (第 7 巻、2009))があるが、ばく露時間の表記がない。

(粉じん・ミスト): データ無し

皮膚腐食性・刺激性 ウサギに 20 時間適用した試験で腐食性(corrosive)の結果、ばく露時間は不明であるが刺激性(irritating)の結果(IUCLID (2000))、皮膚に付くと発赤、痛みを生じるとの報告(環境省リスク評価 (第 7 巻、2009))

眼に対する重篤な損傷・刺激性 ウサギの眼に適用した試験で結膜に悪影響を示し、長期間持続する重度の角膜混濁を起こすとの結果(HSDB (2006))、また、眼に入ると発赤、痛みを生じるとの報告(環境省リスク評価 (第 7 巻、2009))。

呼吸器感作性又は皮膚感作性 呼吸器感作性: データ無し
皮膚感作性: データ無し

生殖細胞変異原性 in vivo の試験データがなく分類できない。なお、チャイニーズハムスターV79 細胞による染色体異常試験においては陽性の結果が報告されている(IUCLID (2000))。

発がん性 データ無し

生殖毒性 ラットを用い交尾前から妊娠期間を通じ哺育期間まで、15、50、75mg/kg/day を経口投与した試験において、生殖能または発生に対する悪影響として 50 mg/kg/day 以上の群で出生仔の 4 日生存率の低下、75 mg/kg/day 群で着床後胚損失率の上昇、出生仔数の減少がみられている(環境省リスク評価 (第 7 巻、2009))。しかし、これらの用量では妊娠期間中及び出産後に雌動物が高い死亡率を示している(50mg/kg/day 群で 3/10 匹、75 mg/kg/day 群で 4/10 匹)ことから、分類の根拠とはしなかった。一方、ラットの妊娠 12 日から 16 日まで 67 mg/kg/day を経口投与した試験では、母動物の体重増加のわずかな抑制に加え、胚吸収率の上昇と出生仔数のやや減少が報告されている(環境省リスク評価 (第 7 巻、2009))が、有意な影響と判断できない。

特定標的臓器／全身毒性(単回) 本物質は吸入により息切れを起こす、また、ICSC (2001) および HSDB (2006) に中枢神経系に影響を及ぼす可能性があるとして記載されている。

特定標的臓器／全身毒性(反復) ラットに 2 週間経口投与した試験において、最高用量の 100 mg/kg/day (90 日補正用量: 15.4 mg/kg/day) で死亡のほか、肝臓肥大、血液検査でトランスアミナーゼの上昇(環境省リスク評価 (第 7 巻、2009))、また、ラットに 7 週間経口投与した試験では、50 mg/kg/day (90 日補正用量: 27 mg/kg/day) 以上で肝臓の蒼白化、肝細胞の肥大と空胞化(環境省リスク評価 (第 7 巻、2009))、モルモ

ットに 28 回反復経口投与した試験(22.4～112 mg/kg/day)では肝機能の低下(IUCLID (2000))がそれぞれ観察されている。以上の各試験ともガイダンス値区分 2 に相当する用量で肝臓への影響が共通に認められる。
データ無し

吸引性呼吸器有害性

12.【環境影響情報】

製品としての情報がないため以下、2-メルカプトエタノールの環境影響情報を記載する。

水生環境急性有害性 甲殻類 (オオミジンコ) での 48 時間 EC50 = 0.4 mg/L (SIDS, 2005)。
水生環境慢性有害性 急速分解性がない (SIDS, 2005)

13.【廃棄上の注意】

残余廃棄物

廃棄の際は、関連法規ならびに地方自治体の規準に従う。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

14.【輸送上の注意】

国際規制

国連番号 該当なし

国連分類 該当なし

特別の安全対策

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

15.【適用法令】

労働安全衛生法	該当なし
労働基準法	該当なし
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	該当なし
毒物及び劇物取締法	毒物(指定令第1条) 2-メルカプトエタノール及びこれを含有する製剤(政令番号:26-11)
大気汚染防止法	該当なし
水質汚濁防止法施行令第2条有害物質	該当なし
海洋汚染防止法	有害液体物質(Z類物質)(施行令別表第1)
消防法	危険物該当なし
船舶安全法	毒物類・毒物(危規則第3条危険物告示別表第1)
航空法	毒物類・毒物(施行規則第194条危険物告示別表第1)

16.【その他の情報】

参考文献

- ・ 厚生労働省ウェブサイト 職場のあんぜんサイト
- ・ 製品評価技術基盤機構 GHS混合物分類ツール (GHS改定2版対応版)

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。